

令和7年度 第1回湯沢市部活動協議会記録

令和7年6月18日（水）

15:00～

会議室23・24

◎委嘱状交付

1 開会

2 挨拶（教育部長）

日頃よりご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

現在の取り組み、今後の方向性等について報告させていただきたい。

国の有識者会議による提言、新ガイドライン等が出されているが、国、県の動向を踏まえて対応していきたい。

今後ともご理解、ご協力をいただきたい。

3 事務局員紹介

（省略）

4 報告（課長）

「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」からの最終取りまとめを受けての報告

○国の方針

- ・令和8年度からの6年間を「改革実行期間」とする。

- ・令和13年度までに休日は全ての部活動で移行を目指す。

○これを受け、本市ではこれまで令和8年度からの地域クラブ活動への移行を行うことを目標として進めてきたが、今後示される国や県の動向を踏まえ、必要かつ弾力的な見直しを検討することとしている。

まずは学校部活動を継続しつつ、準備が整った競技種目等から順に地域移行できるよう、引き続き取組を進めていく。

5 協議

（1）湯沢市部活動協議会の設置について

- ・会長及び副会長の選任について

事務局案 承認

- ・会長挨拶

暑い中、お集まりいただき、感謝する。

学校にエアコンを入れていただきありがたい。

部活動の地域移行については、先行的に3競技を実施しているが、準備の整った

競技についてはまずはやってみよう、不具合が出てきたら考えていこうというスタンスでやっている。平日も可能な競技から進めていかなければならない。実際に進めるのは各競技団体であるが、委員の皆様には、様々な面でご協力をいただきたい。

(2) 休日における地域クラブ活動への移行状況について

①運動部活動について

○3競技：陸上競技、剣道、柔道

- ・陸上競技 クラブ員52（新入生17）名、指導者9名
- ・湯沢剣心会 クラブ員21（新入生8）名、指導者5名
- ・小町柔道クラブ クラブ員10（新入生2）名、指導者4名

※陸上競技は学校部活動、剣道は学校部活動と地域クラブ活動（3名）、柔道は地域クラブ活動として中学校体育連盟主催の総合体育大会に出場している。

※4・5月の活動実績 陸上競技は実績はなし、湯沢剣心会は9日、小町柔道クラブは9日となっている。

○5競技：野球、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、卓球

- ・それぞれの競技に事務局の担当をおき、競技ごとに意見交換等を行っている。
- ・野球：小学校スポーツ少年団に関わる保護者を中心に発足の動きがある。
バスケ：協会と意見交換、協議中。
バレー：発足に向けて打ち合わせを数回行っている。
ハンド：近日中、協会の方々と意見交換、協議を行う予定。
卓球：TTC YUZAWAとして活動予定。これまで4回の合同練習を実施。

②文化部活動について

- ・吹奏楽、合唱は令和7年度秋以降から、地域移行を目指している。
- ・その他の部活動については、令和7年度は学校部活動として活動する。

(3) 運動部、文化部に分かれての協議

①運動部活動について

事務局から説明

事務局：令和7年度第1回湯沢市部活動協議会（運動部活動用）の資料に沿って説明

司会：次の「運動部における課題、問題点」について解決策を探っていききたいと思うのでご意見をいただきたい。

【主な4つの課題や問題点】

- 運営主体が決まらない
- 指導者がなかなか見当たらない
- 送迎の負担が大きい
- 学校や地域の関与が薄い

委員：運営主体が決まらないことに関して、野球が一番今後の見通しがもてていない現状である。先週、湯沢市雄勝郡中学校総体が実施された中で、地域クラブで出場しているチームもあった。ただし、野球についてはなかつ

た。進めるのが難しいのかもしれない。地域移行に向けて、どんなアクションを起こせばよいのか意見をいただきたい。

司会：（地域クラブでの中学校総体出場校について）由利本荘での総合体育大会では1チーム出場したようだ。

委員：由利本荘ベースボールクラブがある。中学校野球ではシニアクラブ（硬式）に所属する生徒もいる。シニアクラブに行くと中学校総体には出ることができない。

司会：湯沢市として地域移行を進めていく上で、運営主体は大切。

委員：中体連野球専門部の部会長という立場で、野球の地域クラブの受け皿を決めるのは大変。野球協会があるが、審判部を中心としているため指導者の派遣は難しく地域移行に進めない現状である。まだ、部活動として実施できている状況があり、3校合同のチームもある。仮に湯沢市において地域移行になると、東成瀬中学校は地域クラブに入ることができない。まだ、合同チームの方が成立する。ただし、近未来的に人数を把握し、やはり、中体連野球専門部と保護者、スポ少を交えて、話し合いをしていくべきである。専門委員長とも話し合いをしたが、野球専門部としてまだ動き出しにくい。

委員：スポーツ少年団（以下、スポ少）でも合同チームで出ている状況がある。意識として、人数減が見える化して、呼びかける必要がある。スポ少の全体人数も減っている。

委員：中学校で合同練習をしている方々の意見は聞いているのか。単独チームは気にしていないと思うが、必要性を感じているかもしれない。

委員：雄勝では単独チームでやっていない。先生方が主体で、保護者が主張する権限はない現状。

委員：合同チームについては、好きなチーム同士ではなく、しっかりと協議の上で合同チームを組んでいる。

委員：人数減については見える化していく必要がある。先生方が一番理解しているはず。先生方から保護者に生徒数が減少していることと地域クラブの必要性を説明してもらう必要がある。地域移行には期限がある。

事務局：合同チームを決める段階では、何か協議されているのか。

委員：合同チームを決める場合は、大会ごとに協議されている。春に中体連のチーム編成がされている。

委員：野球専門部としては、地域移行に関する協議はしていないのか。

委員：野球専門部は、通常大会運営のために集まっている。じっくり話す時間がない状況。先生方がどんどん地域移行を進めていくのも違うと思うが。

委員：野球連盟は審判部連盟のようなものである。

司会：今後も、地域移行を進める側として先生方や保護者の話を聞いていかなければならない。本市の方針である準備が整ったところから地域移行に入るということは分かるが、野球の地域移行については現在のところ他の競技と差がある。

委員：スポ少から中学校の野球部に進む生徒の割合はどのくらいか。

委員：スポ少からシニアクラブに行って野球を続ける生徒もかなりいるので、数字を出すことは難しい。中学校に在籍して、休日はシニアに通っている生徒もいる現状。

委員：生徒が今後も、これまでと同じように活動できるための受け皿としての地域クラブを立ち上げておく必要はある。野球専門部でもそのための話を続けていきたい。

委員：保護者としては、感覚のずれがある。移行のスピードは以前に比べると遅くなってきているのか。以前は、外部指導者をさがしてほしい、指導者を集めてほしいという話も聞いた。保護者としては先生たちが指導してくれるのかと思っていた。今も指導を希望している先生方がいるのでは。湯沢市内では、指導者の資格を取った保護者もいたが進んではない。

委員：財政面、練習場所を含めて、野球専門部だけでは方向性を決めることはできない。様々な立場から集まって話し合いをしていくことが大切だと思う。

委員：内容を知っている人が、各方面に出向いて協議をしてもらいたい。

委員：先行例があると参考になる。

司会：移行について動いていくが、スピード感については何とも言えない。各学校に話をしていきたい。

★他の3つについて意見を聞きたい。

- 指導者がなかなか見当たらない

- 送迎の負担が大きい

- 学校や地域の関与が薄い

委員：“関与が薄い”については先生方自体がどうしたいのか。スポ少になったときは学校の先生は大いに関わってほしいということを強調した。先生方は何もしないという意識を変えていきたい。「地域の子どもは地域で育てる」という意識を発信していきたい。地域の方にももっと情報を発信していく必要があると思う。

司会：“指導者が見つからない”ということもよく出る課題。TTC YUZAWA（卓球の地域クラブ）の指導者の確保の経緯について教えてほしい。

委員：卓球の場合、学校の担当者はプレイヤーとして経験していない人が多い。そこで、技術、審判の業務については、卓球連盟の方々と連携してきた。地域移行の現状についても理解してもらうことができた。指導者に関しては、先生方の中での経験者と連盟の方との連携で進めている。

委員：スポ少では2名以上のライセンスをもっていることが必須。年に5回ほどスタートコーチのライセンス取得の講習会がある。

委員：スポ少のスタートコーチのライセンスの取得には受講料3,000円～5,000円がかかる。スタートコーチは2名いればよい。雄勝ではライセンスを持っている方と指導者は違う方。

委員：ライセンスの取得については競技によって異なる。

委員：ライセンスの取得に関する費用については聞き取りしながら対応を考えている。

委員：保護者の負担についてはどうか。

委員：運営の形が決まれば、そのような問題が出てくる。まずは、運営主体を決めていくことを第1に考えたい。地域移行が進んでいるところのやり方をリサーチしていくことが大切。

委員：6年間の移行期間があるということは2足のわらじ（学校と地域クラブの負担）が6年間進むということ。保護者にとっては経済的にも負担が大きくなる。

委員：スポ少に入っている保護者目線でいうと、負担は覚悟できている。

委員：国の方針も大事だが、湯沢市の方針を決めて進めていくことも大切。

委員：平日の地域移行になると、なかなか難しい。練習時間やスクールバスの運用などを考慮するとかなり厳しい。

委員：3年後に完全に移行するなど、ある程度目標を設定して、決めることが大切。

司会：移行についての見通しをもち、見える化を図っていくことが大切。

委員：各部活動ごとの地域移行の進捗状況は把握しているのか。

委員：競技ごとの進捗状況を把握している。

委員：国は後ろに移行期間を伸ばしていくが、湯沢市としてはどんどん進めていくべき。野球はなかなか進まないが、もっと関係者と協議をしてほしい。難しいところが決まると他もうまくいくと思う。

司会：たくさんのご意見をいただき、感謝申し上げます。今後の取組に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

① 文化部活動について

司会：文化部活動の状況についてお話する。

移行方法についての原案策定に取り組んでいる。

吹奏楽は、5中学校の顧問に質問している。（紙面のみの学校が1校）

その他の部活動については、随時、訪問してヒアリングしている。今後はヒアリングをもとに、案を示し、生徒や保護者の不利益とならないように取り組んでいきたいと考えている。

以下、アンケートの内容。

【秋頃から移行を目指しているが、どう思うか？】

- ・地域クラブ活動のチーム分けはどうなる？
- ・地域クラブ活動の目標をどこに見据えるのか？
- ・湯沢市を一つにするのか、もっと細かくするのか？
- ・秋からは難しいのではないか。
- ・休日のみの移行だと中途半端ではないか。
- ・アンサンブルコンテストへの出場後の地域移行がよいのではないか。
- ・拠点校方式をとり、拠点校教員に兼職兼業を引き受けてもらうのは？

【場所について思うことは？】

- ・楽器の置き場所
- ・学校の開閉
- ・施錠管理
- ・文化会館を活用する場合、送迎はどうするか？

- ・市内文化施設を優先的に使わせてもらえれば。

【地域指導者としての参加について思うことは？】

- ・希望者は継続できるように。
- ・地域の方にお願ひすべき。
- ・教員に選択肢を与えてほしい。
- ・学校の急な仕事が入ったときに、代わりを頼むことができない。
- ・生徒指導の一環の部活動であるため、教員が関わることで対応できることもある。

【保護者の理解について思うことは？】

- ・詳しい情報がないため心配している。

【より円滑な地域移行のために】

- ・地域移行のタイミングを遅らせては？
- ・進捗状況をその都度教えてほしい。
- ・指導者と活動場所が早く決まれば進むのではないか。
- ・市でたたき台を示してほしい。
- ・市というまとまりで考えていきたい。
- ・吹奏楽の演奏の場は、土日。休日と平日の指導者が変わることはいびつ。

【その他】

- ・県内の吹奏楽連盟は、令和8年度で完全移行としている湯沢市の動向を注視している。

(1) 吹奏楽について

委員：人数的に成り立たなくなるという時期の目処はあるか。

委員：人数の目処は立っていない。現在の吹奏楽部の部員数については、他の部活動よりも多くなっている。

委員：地域移行したらやめると言っている生徒がいるのが気になる。

司会：いずれの人口減少に向けて、その土台を作っていくのが地域移行の目的。単独でやれる状況ではあるので。

事務局：運動部活動の場合、学校担当者、地域指導者、保護者が対面して話し合った。

委員：それぞれが思いを持っているだろうから、一堂に会して話し合いをもつ機会をもってもよいのではないか。

司会：部活動は、生徒と先生、保護者への説明がしっかりと届かないといけいけないのではないかと考えている。

委員：移行に向けて、保護者や指導者がどう考えているのか、聞いてみるというのはいかがでしょうか。皆さんにお伝えしないことには始まらないのではないかと。

委員：具体的なことが全く見えてこない2年間。色々な憶測が生まれている状態。私も一つの案について、みんなが集まって話し合う機会を設けてみてはどうかと思う。

令和8年度から、休日は学校で部活動ができないということははっきりしている。ハード面が決まっていなくて何も動くことができない。道具

はどうするのか。すべて学校にある物で活動している。人数が多いので、移動の問題もある。

事務局：県内の吹奏楽連盟は、湯沢市の動向を注視しているとあるが、他の吹奏楽連盟の情報はあるか？

司会：他の吹奏楽連盟は、湯沢市を先進地と把握している。

委員：どれぐらいの先生方が兼職兼業をしてくださると考えているのか。
情報共有をしていただき、子どもたちの活動機会を確保していただきたい。送迎については、保護者同士の協力を仰ぐことができるのではないのか。

事務局：指導者に対してアンケートを行った競技はあった。

委員：去年の協議会で、文化会館で集まってやればよいのでは？という考えが出た。それをどう他の皆さんに伝えればよいのか。

委員：それでも、楽器の運搬という課題が出てくる。
兼職兼業希望の先生が1人しかいないのではないのか。全体指導できる方はなかなかいない。ボランティアでやろうという人はいない。色々なことを理解して指導しなければならない。
現在、外部指導者を招いて指導してもらっているが、1日指導すると3万円。そうすると誰もやりたがらない。現在は部費で払っているものを受益者負担となり、渉外をやる人、事務担当をやる人の負担が大きい。非常に複雑な問題である。道具もたくさんある。車に積むことができる楽器、そうでない楽器がある。楽器のメンテナンスも必要である。

委員：もっと少子化が進めば組みやすいが、まだ人口がある。今、無理矢理進めるのはどうかという感じがしてきた。

司会：行政が主導してまとまるよりは、合同バンドを組むのが自然な流れなのかなと感じる。

事務局：地域移行に係る方針が変わった場合、先生方は納得してやってくれるだろうか。

司会：合唱については南中にしか部活動がないので南中と話していきたい。他の部活動については、休日の活動はないことから、今後、話し合いをしていきたい。

事務局：合唱を続けたいという思いを抱いている子どもはいないのか。

委員：中学校でも合唱をやりたいという子どもたちはいた。

司会：皆様からの貴重なご意見をいただきありがとうございました。予定された時間となりましたので本日の協議はここまでとする。次回は、11月19日を予定としているので、日程調整をお願いしたい。

6 その他

(1) 今後の計画・予定について

○平日の地域クラブ活動に向けての課題など

7 閉会

